

## 環境首都札幌推進協議会第6回会議【議事概要】

日時：平成22年10月7日(木) 10:00～12:00

場所：札幌エルプラザ2階 会議室1・2

次第

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 札幌市の事業報告について
  - (2) 札幌市環境関連施設見学会・環境事業モニター実施報告
  - (3) エコライフレポート作成へのご協力について
  - (4) 環境プラザ事業検討部会の報告
- 3 その他
- 4 閉会

---

### 1 開会

- ・小野環境計画課長より開会宣言
- ・委員17名中、10名の出席を確認
- ・資料の確認

### 2 議題

#### (1) 札幌市の事業報告について(資料1～4)

環境計画課計画係長の森より、「札幌市温暖化対策推進ビジョン」(案)について説明を行った。

久保田委員 札幌市は環境問題に取り組み、2009年までさまざまなものを実施してきていますが、目標に対してどのような成果になっていますか。

事務局(小野) COの排出量は2007年までしか現状ではわかっておらず、どうしても2年以上かかるのです。ですから、2009年の数字はまだ把握できておりません。1990年から2007年まで17年間で1.29倍増えているのが現状です。これは、いろいろな要因があると思いますが、一番大きいのは人口、世帯数の増加がかなり影響していると思います。我々としては、CO削減、温暖化対策に向けていろいろやってきており、その増え幅が抑えられてはいると思っておりますが、この施策の成果でどれだけ減っているかということのはっきり申し上げることができません。

小林会長 札幌で民生が多いというのは製造業が少ないからです。よその都県でCOを出してつくったものを札幌市民がどれだけ使っているのかということなどは算入されていません。また、物流や飛行機も算入されていないものがあるので、この数字だけで余り厳密なことを言うのは不適切でないかなという気がしています。

久保田委員 今のCO問題に対する一般市民の感覚は、余りにも地球規模過ぎて、理屈ではわかるけれども、行動に結びかないというのが一般市民の感覚だと思うのです。

そんな中で、時間はあるにしろ、このような目標を掲げるといって自体、非常に尋常ではないと思います。今までやってきたような対策ではとても追いつかないと思います。

ではどうするのかというと、産官学民というふうに言われますが、これが一体となってやるしかないと思います。今、大型バスを動かしていますけれども、お客さんの少ないところは小型バスでもいいのではないかと、または、買い物バスとか福祉の医療機関だけをめぐるといったような小型のバスがあってもいいのではないかと。また、学というのはこのシナリオの中には余り触れていないようですが、役割は物凄く多いと思っています。

さらに、官の問題としては、新しい社会的な仕組みをつくらなければならない、どうしても既存の仕組みとぶつかって問題が物凄く多いです。それを一つ一つつぶして行って新しい仕組みに乗りかえていくという方法を考えなければならないと思うのです。例えば、札幌市の清掃工場だと、清掃で集めた木くずなどだったら、あそこの裁断機で裁断してペレットストーブの原料として供給してしまうということだってあってもいいと思うのです。

もう一つ、最後の民の協力ですけれども、今までのような個人個人に訴えるということではなく組織的に、例えば町内会単位で訴えるということですね。今、町内会は、自主運営のところは全部、まちづくりの実施計画を策定するようになっていっていますね。その中で、生ごみの堆肥化に取り組むような自主計画を立ててもらえませんか。そう言えば、札幌市ではその計画に応じて予算をつけることになっているのです。そんな例をどんどんやっていくしかないのではないかと考えるのです。

大野委員 10のアクションの中に書いてある9番目のごみ減量・リサイクルの定着・拡大に向けた展開というものがあるのですが、札幌市は2008年にレジ袋の無料配布の中止を事業者と消費者協会と連携を組んでやったわけです。

イオングループも全国でそのような展開をしているわけですが、札幌市の今のレジ袋の辞退率が88%なのです。ところが、ほかの県は60%なのです。1事業者ではこれほどにはできなかったと思うのですけれども、鍵は、市民や事業者が主役という形で、市民と事業者と行政とNPO団体とかいろいろな方々と連携をしてやれば、札幌はずいぞという結果が出るのではないかと考えます。レジ袋について、ほとんどの事業者がマスコミの言うところの有料化に踏み切りましたので、その次にごみの削減の本丸であります容器包装を何とか削減しようということで、もう既にそういう試みが具体的に始まっています。

宮本(尚)委員 一つは質問ですが、長期と中期の目標の設定は、専門部会でどのような流れで、どういう反論があったのかお聞きしたいと思います。

もう一つは、2050年に札幌市の高齢者の率は30%近くになるのではないかと考えるのですけれども、そうなると、今の一人一人のエコアクションではどうにもならない事態になってくると考えます。例えば高齢者施設では物凄くごみが出るのです。30%の高齢者

の衣食住をどうやって温暖化対策と具体的に結びつけていくのかということが凄く大きな課題だと思っています。福祉分野等とも完全に連携していかないと目標は達成できないだろうと思っています。

事務局（小野） 国の方針なり、I P C C という国際間の科学的な見地から国が25%、80%という数字を掲げましたので、基本的にはそれに沿う形の案ではあったのですが、その部会の中ではいろいろな議論がありました。

一番は、ここまで高い数字ができるのかということです。25%というのは、実質は10年間で42%を減らすということです。半分に近い数字ですから、ビジョンとはいえ、そこに掲げるといことは、当然、実行性も問われるわけですし、議論がありました。

次世代にどういう札幌の環境を残すかを考えると、今できることから少しでも多くのことに取り組み始めることが大切で、あえてこういう高い目標でチャレンジするということです。いろいろな事情の変化もあるかもしれませんが、まずは目指すということでやってみようということです。

小林会長 2050年というと、この委員の半分は生きている時代ですね。それほど先の話ではないのです。しかし、国として100年、200年という計画は立てられないので、50年を長期と言っているのです。本当は地球温暖化のタイムスパンとは合わない数字ではあるのですが、それでもここは守らなければならないということです。鳩山政権のときに国際公言したものについて、これは法律として、内部で準備は全部済んでいるので、近々、これで国の政策として決めて、また地方にもこれをお願いせざるを得ない数字だと思っています。

井出委員 一般家庭から出るごみによる二酸化炭素の排出量が実は凄く多いという話をよく聞きます。お母さん方は割とマイバッグを持って行って気をつけている方が多く、札幌市のお母さん方は意識が高いなと思うことはたくさんあるのですが、お父さんと子どもたちですね。お母さんが口を酸っぱくして言ってやっと直るかなというところですので、その教育を母がしなければならいわけです。

教育として、小学校から環境の授業を徹底してやったらどうでしょうか。こういう分別がちゃんとできたら、すごいね、すごいねと褒めて育てるのです。いろいろな工場に行って、ペットボトルはどういうふうにもリサイクルされるのかと。それを徹底的に教育して行って、子どもの方が家の中のリサイクルのエキスパートになってほしいと思うのです。

事務局（高田） 環境教育担当係長をしております高田と言います。

現在学校では、ごみの有料化という動きの中で、クラス単位でごみの減量に非常に取り組まれています。大きなものでは、節水、節電、ごみの減量の三つが、小学校、中学校でも非常に取り組まれており、授業で環境を取り入れるのはなかなか難しいのですけれども、総合学習の中で取組が広がっています。

あわせて、札幌市ではバスの貸し出し事業をやっており、環境のいろいろな施設、例えば今のお話にありましたごみを分別しているセンターや、水道、下水道など色々な環境の

仕組みについて学んでもらおうという授業のサポートをやっているのですが、そういったものも活用していただきながら、子どもたちに環境について考えようという取組を進めているところです。

小林会長 先ほど宮本（尚）委員のご質問の中にありましたが、老人比率がどんどん増えていくことに対して、このビジョンの中ではどういう触れ方をされていますか。

事務局（大平） 環境産業推進担当課長の大平です。

2050年の80%をどうするかということは、我々も非常に悩んでおります。札幌のまちも政令指定都市になったところに道路等いろいろなインフラ整備をしていて、それも2050年までの間には相当変えなければいけない。ですから、まちづくり全体について、施設の更新も含めて2050年までにはいろいろ考えなければいけないのです。その中で、低炭素なまちとは何か、生活の仕方とは何かということをもう少し現実的に書ければよかったのですが、実現がなかなか困難な問題もたくさんありまして、現在では、2050年の80%を、そういうことを意識してこういうふうにするべきということまでは書けません。

ただ、エネルギー問題等でも飛躍的な技術が何かあるかもしれませんので、10年スパンずつ見ていきながら、2050年に向けてよりイメージを形づくって行って、もう少ししたらはっきりこういう姿を目指しましょうと言えるようになればいいのですけれども、今時点は40年後というのははっきりとは描けていないのが現状です。

小林会長 札幌市の総合計画でも、まちをコンパクトにしていこうとか、交通機関をどういうふうにしていこうということを考えております。それから、賢い都市になるとうことでスマートシティということ札幌市では意識しています。

新保委員 資料2の5の環境と経済の両立ですが、こういったビジョンを達成するための手段がこれからいろいろ議論されていくと思います。ただ、先ほど久保田委員がおっしゃったように、多くの一般の人の関心が薄いということが現実問題としてあるわけですし、国際間で不平等というか不平を感情的に持っているということは多々あると感じています。

今、私が活動している中で実際に感じているのは、北海道の完全失業率が5.5%になり、みんなに余裕がない状況の中で、例えば、北国住宅、すてきな住宅を建てたいと思っても建てるお金がない。リフォームして省エネしたいと思ってもリフォームもできない。ということは、自分の生活が安定しないと温暖化対策までは回らないのです。ですから、こういった目標の中に、きちんと生活を守っていくゆとりと金銭的な生活の基盤が大事だと思うのです。

高齢化にしても、社会保障費が膨大な金額に上っていくはずで、それこそ行政の財政を圧迫していくお金になっていくと思うので、なかなか環境まで手が回っていかないというふうになっていくのではないかと思います。

ただ、明るい見通しとしては、こういう社会設備というのは気がついたころにはできている気がするのです。技術的なことなどですね。その目標の時間までにそれが整うかどうか

かというのは、生活の基盤が大切になってくるので、就労支援とか、収入とか、それが環境と結びつく仕組みを一生懸命考えていただきたいし、考えていきたいと思っています。

佐々木委員 温暖化部会で何回か協議したのですけれども、その中で一番大事なことは、次世代に負の財産を残さないということで、では、何をすべきか、どこがやるのか。その中には、市民と事業者と札幌市の協働を整えながらやっていこうということで、温室効果ガスの削減のために10のアクションの展開があるのですけれども、一般的なことでなくて、北国らしい要点を取り入れていこうということを重点に置いています。

1番の北国基準と、7番の北海道は自然が多いですから木質バイオとか、10番の地域のみどりの育成に向けた展開ということ念頭に入れながらやってきたわけです。

井下委員 私は、1年間休学していて、温暖化部会には、資料を送ってもらって、それに対して意見をするという形で参加しました。その間、私は、鹿児島のだ田舎にいて、大分の地元でいて、あとは東京の都心部にいて、キューバに1カ月とカナダのトロントに4日間とか、いろんなところに行ってきて、その中で凄く札幌の可能性を感じたのです。人柄もそうだし、自然がたくさんあり、広くて今からどんどん改善できるような感じがして、こんなふうにビジョンを立てるといことは、札幌に住む一人一人がわくわくした気持ちを持って、こんなふうに変えていけるように自分たちで動いていけたらいいなと思いました。

太田副会長 鳩山前首相が25%削減と言ったときに、正直、びっくりしたのです。

最近、私の研究室の卒業生がJAXAで衛星のデータ解析をやっておりませんが、確実に氷が溶けています。将来的に異状気象が発生してくることがあり得るので、そういう意味では何とかしなければならないと思うのです。

ただ、25%というのはきついと私も思います。しかし、何もしないわけにはいけないということで、まず、ごみ問題では、確かに我が家でも、紙ごみがたくさん出るのです。ですから、大野委員がおっしゃったように、次は容器包装の簡素化だというのは本当だと思います。

それから、人口高齢化の問題は私も感じていまして、これからは都市づくり、まちづくりもそれを含めて考えていかなければならないと思います。そういう意味では、第4章の方でそういうことに関することは余り入っていないのかなという気がしました。

私は郊外に住んでいます。子どもが出て行ってしまって、私とかみさんだけになって、今後10年たったらどうするのか。だれが雪かきをしてくれるのだろうと思うのです。そうすると、出て行ってまちの中に住むしかないのです。ですから、これから50年後は否応なくまちが変わらざるを得ないのではないかという気がします。多分、そのころには札幌市も金がなくなって、郊外までの除雪はしてくれない。自分でやりなさいということになると、ますます郊外に一戸建ての家をつくるなどというのは、よほどの金持ちで、除雪機を持っているような人でないと住めないのではないかと思うのです。ですから、将来の都市計画、まちづくりも考えたことが必要なのではないかと思います。

今回、第4章で実際にアクションプランを立てて、かなりきちっと細かい項目まで上げて、さらに削減量を何万トンという形まで出したのは、非常にいいやり方だと思います。ただ、いずれも金がかかることなのです。これから金がなくなるときに、大幅リフォームするとか、新しいものに買い換えることはなかなかできないわけです。ですから、技術革新と低価格化に期待はしますが、あと2年、3年ではできないことではないので、10年の間にここに持っていくのはなかなか大変かなという感じがしました。

ずっと以前に日本の各都市における市民1人当たりのエネルギー消費量を調査したことがあります。札幌が際立って高いのです。これは当たり前で、暖房で高いのです。札幌は市民1人当たりのCO<sub>2</sub>の総発生量が日本全国でも高いまちです。それをできるだけ減らすということで、第4章の10のアクションプランの2番、高効率の給湯・暖房で108万トン減らせるというのは非常に大きいと思います。一番効き目がある分野を一番頑張ってきてやるというのが当たり前な話で、ここで言うと、2番とか3番あたりが非常にきくと思いますので、この辺は頑張っていけばいいのではないかと思います。

照井委員 交通産業に携わる者として、車のCO<sub>2</sub>は非常に関心があります。この10のアクションを見た限りでは、これができたら最高だなと思うのですが、率直に言って、私は無理だと思うのです。結局、つくったという格好で終わりかねないです。

スイスのmatterホルンの下のまちは、中に入ったら電気自動車以外はだめなのです。札幌のノーマイカーデーは5日と20日でした。直訳するとマイカーがない日なのですが、あふれ返っているということは、なかなか実行できていないのです。

どうやって取組をしたらいいのかということをも具体的に示さないと、なかなか進まないだろうと思います。ビジョンの発表そのものは確かに重要ですが、では、それをするために金をかけないでどんなことができるのかという部分を詰めていかないと難しいと思います。

我々、CO<sub>2</sub>をまき散らしている産業としては非常に責任重大なものですから、できる限り協力していきたいと思っています。

## (2) 札幌市環境関連施設見学会・環境事業モニター実施報告

環境計画課計画係の笠原より、札幌市環境関連施設見学会及び札幌市環境事業モニターの実施報告を行った。

久保田委員 環境広場さっぽろでペレットストーブを展示していました。その会社に、なぜこれは普及しないのかと聞きましたら、やはりストーブ自体も燃料代も高いということでした。それで、私は、それはリース品にしたらいいいのではないかといいました。例えば、耐用年数で20年持つのだったら、燃料代に置きかえたような形で分割したらいいいのではないかという話をしました。さらに、その燃料は砕く作業に電気代がかかると言っていましたので、それならば大量生産すれば安くなるねという話もしました。

そして、植樹祭のときにも同じようなことを考えたのです。植樹をするには間伐しなく

てはならないですね。その間伐材はどうしたらいいのか、燃料にすればいい、ではペレットストーブだねという話になるのですけれども、実は、林業というのは、木が大きくなるまでは収入がないのです。でも、その間伐材が売れば、多少なりの収入も見込めるだろうということになります。または、NGOで取り組んでいる割りばしを集めている運動があるのですが、それもペレット化すれば役に立つ話ですし、総合すればいろいろなことができるのではないかと思います。RDFの工場に行ったときに、RDFは高くてやっていけませんという話を聞いたものですから、ペレットストーブも今のままと同じような状況になるのかなと感じた次第です。

もう一つ、先ほど報告にもありましたけれども、清掃工場で油を助燃しているという話がありました。実は、サーマルリサイクルが切り札なのですけれども、助燃なんて話になると、本末転倒になってしまいます。どうしても生ごみの堆肥化を進めなければならないのですが、それにはお金もかかります。ですから、思い切った手段として、市民基金の設立ということ視野に入れておいてもいいのではないかと私は思いました。

佐々木委員 両施設とも整理整頓されていまして非常にきれいでした。事務局からの案内では、ほこりの多いところだから汚れてもいい服装で来てくださいということだったので、それなりに覚悟して行ったのです。北広島に新聞や段ボールを再生する民間の工場があるのです。そこは、夏場はかなり汚いし、大きな音がするし、そのような感じかなと思っていたのですが、やはり市の施設はいいなということで安心して帰ってきました。

次に思ったことは、我々も一般ごみは分けて出すのですが、その中で生かせば資源になる、捨てれば単純にごみになるということも、かなり理解できましたね。

### (3) エコライフレポート作成へのご協力について（資料5）

環境計画課推進係長の西岡より、エコライフレポート作成へのご協力について説明を行った。

久保田委員 過去に自由研究のテーマで同じような例を出してしまうのはよくないと思います。この3つが過去の例ですか。

事務局（西岡） そうですね。後ろの方に、過去のを添付しておりますけれども、特に自由研究にこだわっているものでもございませんし、これらをもとに考えていただければと考えております。

小林会長 数年前から改訂、改訂で毎回新しいものをお配りしているのです。

それから、札幌市では全校の子どもに環境の副読本をつくっています。1、2年生用、3、4年生用、5、6年生用とそれぞれの先生方が集まってつくったものを全部に配っているのです。小学校は学科目制ではないので、全部の先生が総合教育で環境を扱っていただいています。小学校の先生は、子どもたちが環境の認識を持つように、継続的に、順を追って育てていこうということをいろいろ努力されております。

#### (4) 環境プラザ事業検討部会の報告（資料6）

環境計画課環境教育担当係長の高田より、環境プラザ事業検討部会の報告を行った。

新保委員 この部会に至るまでには、ここのエルプラザが建つ以前から歴史がありまして、市民が集う場所なので、市民意見を取り入れながらみんなにとって使いやすい施設であるためにどうしたらいいかという話し合いを継続的に行い、今のところ、部会という形で、札幌市と市民と環境プラザの指定管理者が協力し合いながら会議を開催しているという経緯があります。

こちらにいらっしゃる委員の皆さんも、この部会の委員の皆さんも、専門性が高い方ばかりですけれども、環境の専門性が高いということと、プラザを利用している利用率はまた別物になりますので、こちらにいらっしゃったついでがありましたら、ぜひプラザの方に足を運んでいただいて、どういう施設なのかを見ていただいて、お気づきのことや、こういったアイデアがあるということがあればぜひ教えていただきたいと思います。

小林会長 いろいろな相談とか問い合わせもあるんですね。

新保委員 環境相談も一般の方、企業の方からいろいろ来るのですけれども、専門的なところは本省各部の方にいろいろ教えていただいたりしながらやっています。

井出委員 環境プラザの見学ツアーとか、授業で使える環境教材などの問い合わせとか利用率はどのくらいなのでしょう。

事務局（高田） 施設の利用者数としましては、年間4万7,000人ぐらいの利用者数になっております。

環境教材は、今回ご指摘があったように、知っている先生にはリピーターとして使っていただいているのですが、まだまだ周知不足で利用率としては芳しくない部分もあったものですから、ホームページだけではなく、チラシなどを使って、学校にも広げていって、もっと利用していただける体制に整えていきたいと考えているところです。

太田副会長 こういうものは教育用に無料で貸し出すのでしょうか、会議室はもちろん有料なわけですね。

事務局（高田） 有料の貸し室と無料の貸し室がございます。ミーティングルームと言いまして、隣の方にございますのは無料の貸し室ですが、研修室等になりますと有料という形で貸し室を行っております。

太田副会長 そうすると、無料の場合は申し込み順というか、あいていればいいということですね。

事務局（高田） 環境プラザの貸し室ですから、環境活動という限定つきという形になっております。

大野委員 イオン北海道は、チアーズクラブというこどもエコクラブを発足させております。それで私は、この環境プラザをよく使わせてもらっているのですけれども、環境の先生を無料で紹介してくれているのです。非常に楽しい教育をしていただいていますので、これはもっともっと紹介した方がいいと思いました。

事務局（高田） ありがとうございます。

資料6 - 1をごらんいただきますと、四角の囲みの中に、主な業務ということで、環境保全アドバイザーと環境教育リーダーというものがございます。恐らく、今、大野委員がおっしゃられているのは、このどちらかの派遣ということです。アドバイザーは専門家の派遣で、太田委員にアドバイザーになっていただいているのですが、主に研修などの際の講師役の派遣です。一方、環境教育リーダーの方は、例えば、川の学習をするときの支援スタッフなど、ある一定の知識のある方でサポートしていただける方を派遣しているという制度でございます。

宮本（尚）委員 今、環境プラザさんの話が出たのですけれども、きたネットと環境プラザと北海道環境財団、EPO北海道の4社でコンソーシアムを組んで取組をしています。その取組について、できれば次回、お話をさせていただきたいと思います。

小林会長 情報ネットを、4団体共通で道内に効率的に知らせようという活動をしていますので、次回に予定していただければと思います。

### 3 閉会